

委託事業実施内容報告書
令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(C)】

実施内容報告書

団体名：京丹後市国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	日本語教育を持続可能にするための体制強化事業
日本語教育活動に関する特定のニーズの実情や課題	本市の人口は、約53,000人で、年々約1,000人の人口減少、過疎化、高齢化が深刻な課題で、日本語指導を担うボランティアも高齢化し、減少している。 近年、日本語ゼロ初級の外国人増加しており(軍属家族、家族滞在、技能)、日本語基礎レベルの指導を求められている。しかし、都市部とは違い、日本語教師などの専門家もおらず、また日本語学校など教育機関がなく、通うにも距離的にも問題があり、当協会の日本語教室でボランティアが担うことになってくるが、マンパワーは限界であった。今年度は、長年に渡り隣市で日本語教育を行っておられる団体との連携で、初期指導の方法を学ぶ機会を得た。YouTubeも活用したことで、指導の様子を繰り返し視聴でき学ぶこともできた。 また、外国人市民で日本語が堪能で、指導者として活動したいという人が発掘できたこともあり、今後は日本人市民での支援者を増やすだけでなく、外国人の力も借りて行っていく。また、今後はオンラインを活用して、他市のボランティアに本市での教室の担当をしてもらおうなど、市域を超えた日本語教室のあり方を検討していく。
事業の目的	増加する外国人市民に対して、日本語教育を今後も提供し続けていけるために、担い手のいないゼロ初級への日本語教育を市外の専門機関などとICTなどを活用しつつ、日本語指導を受けられる体制を作る。日本語教育を継続するために、ボランティアが行う生活に密着した日本語教育と、初期指導とを外国人学習者のニーズに答えられる日本語教育を行い、地域で行う日本語教育へ繋げていく。 また、初期指導などの専門性が高い指導を行う人材の確保として、若い世代にボランティアとしてだけでなく、市内の外国人雇用企業に日本語教育の理解を求め、人材の雇用に繋がるよう、SNSなどを活用し、本市出身で都市部へ流出している学生へ発信していく。 外国人市民に対して、日本語教育を通じて、市民とのコミュニケーションを円滑に図ることができる日本語教育を行い、地域住民としての自覚を持ち、地域との関わりを積極的に行う意欲を醸成していく。 地域住民へは、日本語教室で外国人市民が日本語を習得していくことで、地域活動を継続していけること、ひいては、人口減少と高齢化の著しい本市が持続可能な地域となるために多文化共生の取組みが必要なることを広く市民に理解を得る。地域住民が外国人市民と協働していくために、企業、ボランティア団体、行政窓口へやさしい日本語の普及も行う。
事業内容の概要(課題をどのように解決するのか、どのような点が先進的な取組になるのか分かるように記載)	【取組1】はじめの一歩 日本語教室 日本語初級レベルを対象に、“やさしい日本語”が理解できるレベルへの日本語習得を目指す教室を開催。 みんなの日本語初級を教材とし、初級文型の練習や発音練習を行った。当初は、教室に通うことができない外国人のため、Web会議システムを使用する予定だったが、協会に相談などで来られる外国人に使い勝手などについて聞き取りを行ったところ、YouTubeでのライブ配信を希望される方が多かったので、YouTubeでのライブ配信を行った。(ライブ後は通常視聴が可能) *コーディネーター業務：岸田 【取組2】文化活動などを通じて、場面ごとの日本語指導を行う ・京丹後の自然・環境などについての日本語指導。その後、市内ボランティア団体との海岸清掃活動を実施。 ・日本文化についての日本語指導。その後、短歌を学ぶ会を実施。 この取組の様子は市ケーブルテレビで放送され、外国人市民が本市への興味関心を持つ様子を市民へ周知できた。 *コーディネーター業務：麻田 【取組3】外国人財と地域づくり(講演会) 本市の多言語対応が十分でない状況を踏まえ、SDGsの目標4「質の高い教育 生涯学習の機会を促進」を行うための基盤づくりとしての日本語教育を外国人市民へ行うことで、地域がどのようなメリットがあるかについて講演会を実施。 *コーディネーター業務：麻田 【取組4】やさしい日本語教育マスター育成事業 やさしい日本語の講演会と、ボランティア活動団体や市コロナウイルス対策室、消防本部など幅広い分野の市民へ「やさしい日本語」の普及を行った。 *コーディネーター業務：麻田
事業の実施期間	令和3年5月27日～令和4年3月18日

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	松本 晃治	京丹後市市長室政策企画課・課長
2	田村 太郎	(一社)ダイバーシティ研究所・代表理事
3	近藤 徳明	(公財)京都府国際センター・事業課長
4	岸田 尚子	NPO法人にほんご豊岡あいうえお・事務局長
5	安井 美佐子	京丹後市連合婦人会・会長
6	俣野 裕哉	京丹後市青年会議所・SDGs推進室長
7	藤村 益弘	京丹後市国際交流協会・会長
8	上田美知子	京丹後市国際交流協会・副会長
9	麻田 友子	京丹後市国際交流協会・地域日本語コーディネーター
10		



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和3年6月21日 (月) 14:00～16:30	2時間30分	京丹後市役所201会議室	運営委員全員 * オンライン: 田村太郎氏	1.事業計画についての説明 2.連携団体について検討
2	令和3年12月20日 (月) 14:00～16:30	2時間30分	京丹後市役所201会議室	運営委員全員	1.実施事業についての説明 2.実施方法等について成果、課題について検討
3	令和4年3月3日 (木) 10:00～12:00	2時間	京丹後市役所201会議室	運営委員全員 * オンライン: 田村太郎氏	1.次年度以降の取り組み体制について検討

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<ul style="list-style-type: none"> ■京丹後市: 各部局と連携し、外国人市民への行政サービスの情報提供。外国人状況・課題の共有を行った ■(公財)京都府国際センター: 府内日本語教室のネットワーキングに参画 ■京都府国際課: 京都府北部地域の日本語教育の実情と人材確保についての連携 ■NPO法人にほんご豊岡あいうえお: 近隣の活動団体として、相互の活動支援と、日本語初期指導についての支援をいただいた ■社会福祉協議会: 市内ボランティア団体との連携によりやさしい日本語の普及を行った ■女性連絡協議会: 各婦人会での活動に外国人市民の参画を促していただいた ■文化協会: 文化活動の紹介、外国人への文化活動参加促進ができた ■市内企業: 外国人市民への日本語教育への協力いただいた ■青年会議所: SDGsの取り組みについて連携協力を行った ■スポーツ推進員: やさしい日本語の普及について理解と今後の協力意思をいただいた ■警察警備課: やさしい日本語の普及について理解と今後の協力意思をいただいた
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	<p>コーディネーター(岸田): 取組1の外国人学習者への指導内容検討・調整(指導者との調整、外国人学習者からのニーズ調査)</p> <p>コーディネーター(麻田): 事業の安全確保、市行政各局との連携、企業など他団体との連携(取組2・3・4)、市民への広報など</p> <p>指導者(上田): 取組1・2・4の指導、取組事業の実施状況の管理</p>
----------	---

3. 各取組の報告

特定のニーズに応じた日本語教育の実施【活動の名称: はじめの一步 初級日本語教室】										
取組の目標	近年、日本語が全く話すことができない外国人市民が増えている。増加する外国人市民に対して、日本語教育を今後も提供し続けていくために、担い手のいないゼロ初級への日本語教育を市外の専門機関などとICTなどを活用しつつ、日本語指導を受けられる体制を作る。日本語教育を継続するために、ボランティアが行う生活に密着した日本語教育と、初期指導とを外国人学習者のニーズに答えられる日本語教育を行い、地域で行う日本語教育へ繋げていく。外国人市民が市内で生活するための最低限必要な日本語の習得を目指し、地域住民とのコミュニケーションをとることができるようになる。									
内容	日本語初級レベルを対象に、“やさしい日本語”が理解できるレベルへの日本語習得を目指す教室を開催。 □指導: NPO法人にほんご豊岡あいうえお 勝間良枝氏 みんなの日本語初級 I を教材とし、初級文型の練習や発音練習を行った。当初は、教室に通うことができない外国人のため、Web会議システムを使用する予定だったが、YouTubeでのライブ配信を希望される方が多かったので、YouTubeでのライブ配信を行った。(ライブ後は通常視聴が可能) 閲覧数: 平均51回									
実施期間	令和3年9月1日～令和3年11月24日			授業時間・コマ数	1回2時間 × 12回 = 24 時間					
対象者	京丹後市内在住・在勤の外国人			参加者	総数 17 人 (受講者 15人, 指導者・支援者等 2人)					
カリキュラム案活用	(30) 職場の人間関係を円滑にする 場に合わせたあいさつをする、誘いを受ける断る (31) 人と付き合う あいさつをする・自己紹介をする、自己紹介時の質問に答える (08) 物品購入サービスを利用する 日本の商業や店舗の事情の概略を知る、定員に商品について尋ねる、値段を尋ねる (1003) 行き先・停留所を確認する 駅名や停留所名を理解する、行き先や停留所について質問する、駅員や客に尋ねる									
使用した教材・リソース										
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	5								2	3
アメリカ(8人)										
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和3年9月1日(水) 13:30～15:30	2	京丹後市役所	11	初対面の人と簡単な挨拶や自己紹介ができる	教室で使う言葉 自分の名前	勝間良枝 上田美知子			
2	令和3年9月8日(水) 13:30～15:30	2	京丹後市役所	8	初対面の人と簡単な挨拶や自己紹介ができる	自分の仕事が言える 他の人を紹介する	勝間良枝 上田美知子			
3	令和3年9月15日(水) 13:30～15:30	2	京丹後市役所	6	物を指し示して何か質問する	これ、あれを覚える 物の名前覚える	勝間良枝 上田美知子			
4	令和3年9月22日(水) 13:30～15:30	2	京丹後市役所	7	物の持ち主が言える 場所が言える	物が誰のか尋ねる・答える 何階か言える	勝間良枝 上田美知子			
5	令和3年9月29日(水) 13:30～15:30	2	京丹後市役所	7	数字が言える	数字を読んで言えるようにする 数字の単位を学ぶ	勝間良枝 上田美知子			
6	令和3年10月6日(水) 13:30～15:30	2	京丹後市役所	8	簡単な日常の行動が言える	時間・曜日について学ぶ	勝間良枝 上田美知子			
7	令和3年10月13日(水) 13:30～15:30	2	京丹後市役所	8	簡単な日常の行動が言える	何をします・しましたを学ぶ	勝間良枝 上田美知子			

8	令和3年10月20日 (水) 13:30~15:30	2	京丹後市役所	9	簡単な日常の行動が言える	どこに行く・交通手段を学ぶ	勝間良枝 上田美知子
9	令和3年10月27日 (水) 13:30~15:30	2	京丹後市役所	6	簡単な日常の行動が言える	基本的な形容詞について学ぶ 身の回りの様子、感想が言える	勝間良枝 上田美知子
10	令和3年11月10日 (水) 13:30~15:30	2	京丹後市役所	9	簡単な日常の行動が言える	物の授受について学ぶ 理由を簡単に説明する	勝間良枝 上田美知子
11	令和3年11月17日 (水) 13:30~15:30	2	京丹後市役所	8	簡単な日常の行動が言える	人や物の所在を学ぶ	勝間良枝 上田美知子
12	令和3年11月24日 (水) 13:30~15:30	2	京丹後市役所	7	簡単な日常の行動が言える	身近なことについて簡単な比較ができる まとめ	勝間良枝 上田美知子

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 令和3年9月1日】* 緊急事態宣言中のため、教室形式で開催

教室の言葉を学ぶ

直接日本語法で学ぶため、先生の指示について日本語指導(聞きます、言います、~てください)と、学習者が言える日本語を指導(分かります、わかりません、もう1回お願いしますなど)

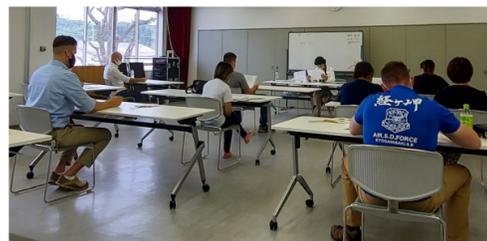
自己紹介

私は~です。(名前、身分、仕事先)が言えるように練習。

相手から名前や身分を問われたときに答えられるように練習。

自分の名前を書く

カタカナとひらがなで名前を書く練習



○取組事例②

【第12回 令和3年11月24日】

過去の出来事や経験について簡単な感想や印象が言える

~でした。~じゅありませんでした。京丹後の四季や特徴を言えるよう練習(寒い、暑い、雪、海など)

相手に質問する(行ったことがある場所などを参考に質問して答えられるようにする)

身近なことについて簡単な比較ができる。

~と、どちら~ですか。(京丹後と京都との比較、公共交通と自家用車との比較など)



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

学習申込は15人あり、8割以上の出席が4人であった(全回出席が2人)。アンケートは多言語に翻訳したものを使用し行った結果(7人が回答)、日本語が上手になったという質問では、「上手になったと思う:4人」「まあまあ上手になった:3人」であり、実際に最初に自分の名前を言うことが精一杯だった学習者が、相手に質問できるまでになったことは大きな成果である。また、プログラムを受ける前より、日本での生活ができるようになったかという質問でも「できるようになったと思う:4人」「少しできるようになったと思う:3人」で、日本語を話すことへの緊張が少し溶けたという感想も寄せられた。参加できない学習者へZoomの活用を計画していたが、参加したいが仕事などの都合で参加できない学習希望者への聞き取りで、YouTubeでの配信をして欲しいという声が寄せられたため、YouTubeの配信となった。視聴回数も平均で約51回であった。また、当協会のボランティアもYouTubeを視聴し、教え方の参考としているという声も複数寄せられた。初級を教えるための、テクニクを少しでも知ってもらえる機会となった。

(3) 今後の改善点について

学習者のレベルをひらがなが読めるレベルを想定していたが、学習者の多くがひらがなを読めなかった。また、指導者から、申込の際に、来日年数や普段日本語を使う場面の聞き取りなどを丁寧にして欲しいという意見があった。今後は日本語学習サイト「つながるひろがるにほんごでのくらし」のレベル判定なども使用しながら、学習希望者のレベルの把握に努めたい。

学習者からは満足の声が多かった。今後の初級のクラスについては、レベル調査と合わせ、日本語を使う場面が同じ学習者を1クラスとして教室を実施していく。

取り組みの成果の発信や普及及び住民の日本語教育への理解の促進【活動の名称:地域の人と一緒にボランティアや文化活動をやってみよう】

取組の目標	日本語を学習する外国人が、方言などもあり、場面ごとでは地域の人と会話が上手くいかない場面も多いというニーズがある。場面ごとの日本語教育と合わせて、地域住民とのボランティア活動や文化活動を行う。これまで外国人市民と直接関わることがなかった高齢世代の方との交流を図り、外国人市民にも地域住民としての自覚や自己実現を得る機会となることを目的とする。										
内 容	【文化活動などを通じて、場面ごとの日本語指導を行う】 ・京丹後の自然・環境などについての日本語指導を実施 □日時:6月26日(土) □対象:ビーチクリーン申込み外国人 ・市内ボランティア団体との海岸清掃活動を実施 □日時:7月4日(土) □周知:Facebook、ニュースレター ・日本文化についての日本語指導を実施 文化体験として、短歌作成の体験を実施 □日時:10月18日(日) □周知:国際交流協会 会員外国人(人数に制限があったため) また、この取組の様子を京丹後市ケーブルテレビで放送し、外国人市民が本市への興味関心を持ち学ぶ様子を広く市民に周知した										
開催時間数	総時間 8時間					内訳 2時間 × 4回 内容と時間は下記実施内容のとおり					
参加対象者	市民(外国人・日本人)					参加者数 (内 外国人数)		91人(外国人:41人)			
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネ シア	ペルー	フィリピン	日本	計
	3	1		5			1		5	50	65
アメリカ(19人)、イギリス(7人)											

活動の実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	テーマ	概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和3年6月26日(土) 10:00~12:00	2	峰山地域公 民館	6	自然・環境	京丹後市の自然(海岸の名前)、ゴミの分別などの日本語指導	上田 美知 子	3名			
2	令和3年7月4日(土) 10:00~12:00	2	箱石浜	65 (外国 人:21 人)	ボランティア活動	ボランティア団体との海岸清掃活動					
3	令和3年10月18日 (日) 9:00~11:00	2	小町公園 「小町の舎」	10	日本文化について	日本文化について日本語指導	上田 美知 子				
4	令和3年10月18日 (土) 13:00~15:00	2	小町公園 「小町の舎」	10	文化体験(短歌作成)	着物の着付けと短歌作成・披露	京丹後市短 歌協会				

(1)特徴的な活動風景

○取組事例①

【第2回 令和3年7月4日】
 ボランティア活動をやってみよう
 当日は全体で65人の参加された。その中には、外国人と一緒に活動がしたいという親子も多く参加されるなど、幅広い年代の参加があった。
 ビーチクリーンの最中に、京丹後の砂浜の特徴や生態系などについて、外国人参加者から質問される場面も多くあった。日本語が少ししか話せない外国人市民が一生懸命話しかける姿に、日本人市民も丁寧に話を聞き、また答えるなど、言葉の壁が少し低くなったと参加者からの声が聞かれた。



○取組事例②

【第4回 令和3年10月18日】
 文化体験(着物の着付けと短歌作成)
 午前中に日本文化についての日本語指導のあと、参加者の一部が着物の着付けをしていただき、また、短歌の基本的な構造などの指導のあと、作成も行った。短歌は日本語ができない参加者はそれぞれの母語で行い、日本語ができる方は日本語で作成された。
 初めて着物を着せてもらった参加者ばかりで、座り方や動き方など新しい発見に大喜びであった。また、短歌協会の皆さんからは、外国人の作る短歌について、日本人の視点では気づかない季節の感じ方などに感心されていた。



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

場面ごとの日本語学習として、ゴミの分別に関すること、ビーチクリーン、日本文化という3つをテーマにして行った。
 ビーチクリーンでは地元のボランティア団体さんと一緒に活動を行った。高齢の方も多く、普段、外国人と話しことがない方が多かったが、少し日本語が話せると分かるとうっくり話したり身振り手振りを交えて交流が図られていた。参加した外国人からも、地域のボランティアに頼りにされたことを喜ぶ声や学習した日本語で会話ができたと自信につながったという感想が寄せられました。
 日本文化についての日本語指導と短歌指導では、和の基本的な言葉について学び、短歌については披露もおこなった
 平成29年度に行った外国人市民アンケートでも、地域の行事に参加したい(65人)、ボランティア活動を一緒にしたい(57人)という回答があり、外国人市民のニーズに合わせた社会参画を今後も継続していきたい。

(3) 今後の改善点について

技能実習生を雇用する企業が地域との繋がりを持たせないケースがコロナ禍もあり、増えている。一方で、外国人市民からは地域の行事に参加したいというニーズはあるので、今後も、企業への多文化共生の理解の促進を促していく。
 ゴミの分別、防災に関する事など、場面ごとの日本語教室を開催し、通常の日本語教室で参加していない外国人市民も単発でも参加できる教室を実施することで、日本語を学びたい、日本語の勉強が楽しいと思ってもらえる機会を提供していく。
 外国人の社会参画については、海岸清掃ボランティア活動の継続。また、他団体が主催する際にも外国人市民へ周知する。
 また、外国人市民が活動している様子をケーブルテレビや市広報誌で紹介する。

任意取組<取組名> 【活動の名称: 外国人材と地域づくり】										
参加対象者	市民						参加者数 (内 外国人数)	35人(人)		
開催時間数	総時間 5時間						内訳 3時間 × 1回(講義) 2時間 × 1回(事前協議)			
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										35
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和3年7月6日(火) 16:00~18:00	2	京丹後市役所	5	講演会についての事前協議	オンラインで田村氏と繋ぎ本市の多文化共生の施策などを踏まえて講演内容等協議	田村太郎	5名		
2	令和3年8月2日(月) 13:00~16:00	3	京丹後市役所	35	多文化共生についての講演	日本語教育が地域にどのようなメリットがあるのか	田村太郎			
3										
4										
5										

任意取組<取組名> 【活動の名称: やさしい日本語マスター育成事業】										
参加対象者	市民・市職員等						参加者数 (内 外国人数)	77人 (外国人:1人)		
開催時間数	総時間 8時間						内訳 3時間 × 2回 1時間 × 2回			
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										76
	(アメリカ:1)									

養成・研修の実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和3年7月28日(水) 17:30~18:40	3	峰山総合福祉センター	8	やさしい日本語	新型コロナウイルス対策室へのコロナワクチン接種などについてのやさしい日本語解説	麻田友子	5名
2	令和3年10月14日(木) 10:00~12:00	3	峰山総合福祉センター	25	やさしい日本語	やさしい日本語について基本的な内容について講演	土井佳彦	
3	令和3年12月9日(木) 10:00~12:00	1	京丹後市消防本部	19	やさしい日本語	消防本部で使う用語についてやさしい日本語への変換の仕方	麻田友子	
4	令和3年12月10日(金) 10:00~12:00	1	京丹後市消防本部	25	やさしい日本語	〃	麻田友子	
5								

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【令和3年8月3日】

多文化共生を促進することで、誰もが活躍できる地域となる必要性や、外国人が日本語を学ぶことについて地域のメリットとなることを交えて講演された。参加者の多くが多文化共生・日本語教育についての重要性を認識してもらえる講演会となった。(アンケート結果別紙添付)
市ケーブルテレビで特番として放送されたことで、広く市民に知ってもらう機会となった。



○取組事例②

【令和3年10月14日】

外国人に伝える・伝えるやさしい日本語研修会
講師に、土井佳彦氏を迎え、市民や市職員に対する研修会を開催。市民は日本語ボランティアや民生児童委員などが多く参加された。今回、初めてやさしい日本語を知るという方も多く、なぜ、やさしく言い換えることが必要なのかについて、理解を深められた。(アンケート結果別紙添付)

【令和3年12月9日】

消防本部市職員へのやさしい日本語研修会
消防本部でやさしい日本語とは、また、消防本部で使う言葉の言い換えなどについて研修会を実施した。2日間に渡り、消防本部峰山本署の全職員が参加された。
消防職員が当たり前で使う言葉が、外国人や高齢者、子どもに伝わりにくいということに驚かれていた。(資料添付)



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

コロナ禍の中、感染対策を徹底し、対面での講演会、講座が実施できた。多文化共生ややさしい日本語について知る講演会などを実施し、外国人市民と直接関わる機会が少ない市民へも意識してもらえる機会となった。アンケート結果からも「お互いを知ることが大切」という感想も多く、言葉の壁を超えるよう、お互いに思いあう気持ちが育まれ、日本語教育や多文化共生についての理解が深まった市民が多かった。
また、やさしい日本語については、広く知ってもらう機会と、関係機関の使う場面に合わせて言い換え例などを提示できる機会を得て、また、その場面を周知したことで、市役所内や市民活動団体から、やさしい日本語の言い換えを教えて欲しいという意見をいただいた。

(3) 今後の改善点について

外国人市民が地域で暮らしていくために、地域の接点となるのが、区長や自治会長なので、全区長にもチラシを配布したが、平日の開催だったため、参加が少なかった。また、市内企業への理解促進のために、今後は対象者を企業向けなどと絞り、企業での日本語教育の取組の事例などについてもお話いただくなど、同じ立場からの話を聞いてもらうことで理解を深めてもらうなどの工夫も行っていきたい。
また、外国人市民の意見も知ってもらえる場を提供していきたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

増加する外国人市民に対して、日本語教育を今後も提供し続けていけるために、担い手のいないゼロ初級への日本語教育を市外の専門機関などとICTなどを活用しつつ、日本語指導を受けられる体制を作る。日本語教育を継続するために、ボランティアが行う生活に密着した日本語教育と、初期指導とを外国人学習者のニーズに答えられる日本語教育を行い、地域で行う日本語教育へ繋げていく。
また、初期指導などの専門性が高い指導を行う人材の確保として、若い世代にボランティアとしてだけでなく、市内の外国人雇用企業に日本語教育の理解を求め、人材の雇用に繋がるよう、SNSなどを活用し、本市出身で都市部へ流出している学生へ発信していく。
外国人市民に対して、日本語教育を通じて、市民とのコミュニケーションを円滑に図ることができる日本語教育を行い、地域住民としての自覚を持ち、地域との関わりを積極的に行う意欲を醸成していく。
地域住民へは、日本語教室で外国人市民が日本語を習得していくことで、地域活動を継続していけること、ひいては、人口減少と高齢化の著しい本市が持続可能な地域となるために多文化共生の取組みが必要なことを広く市民に理解を得る。地域住民が外国人市民と協働していくために、企業、ボランティア団体、行政窓口へやさしい日本語の普及も行う。

(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

日本語教育を担う人財の不足を今回は隣市の日本語教育専門機関に初期日本語教室を担っていただいたことで、今後はボランティアが指導する生活に密着した日本語教室に繋げていくことができた。(終了後、参加者の中から6人が通常の日本語教室への申込をされた)。
また、初級日本語教室について掲載された市広報を見た日本語上級者の外国人市民から、「日本語を教えてみたい」(アメリカ、中国(2)出身)という要望も寄せられた。この提案は、初めてのことであり、外国人市民が積極的に社会参画しやすくなっていることが伺えた。
今後は日本人だけでなく、外国人市民も日本語教室の担い手となる機会を提供することで、担い手不足の解消に繋げていくことができる。
運営委員からの意見として、府内の日本語教室で初期指導の方法を学んだボランティアが活躍できる機会がないとのことで、コロナ禍でオンラインが普及したこともあり、今後は府内の日本語教室と連携し、オンラインで初級日本語指導者とのマッチングを実施していくことを検討していく。外国人人材やオンライン化などで、これまで指導者＝日本人、対面ではない日本語教育も合わせて実施し、外国人市民のニーズに合わせた、しなやかなに対応できる体制が整ってきた。
やさしい日本語の普及については、広く市民に知っていただくという機会と、それぞれの活動の場面での言い換えを提示したことで、理解を深めてもらえたことがアンケート結果から見えてきた。今後も各団体の要望に合わせた普及啓発を進めていく。
今後も企業で働く外国人が増えることが予想される中、企業にとってどんな場(日本語教室)なら行かせたいのかなどの意見を聞く機会を設けていくための、連携が市や青年会議所とできた。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果等

市との連携では、外国人市民の国籍、在留資格、年齢などの情報を共有し、分析を行うことができた。外国人市民全員に日本語教室の案内を発送するためのデータ提供がいただけた。また、「外国人入財と地域づくり講演会」「外国人に伝える・伝えるやさしい日本語研修会」については、市内の区長さんや民生児童委員への案内を市担当課からしていただき、外国人市民を地域で支えてくださる方への周知に繋がった。
初期日本語指導を行っていただいたNPO法人にほんご豊岡あいうえおとは、隣市でもあり、外国人市民の状況(散在地域で永住者と技能実習生の女性が多いなど)が似ているので、ニーズの調査などについて今後も連携を行っていく。
文化協会や短歌協会とは今回が初めて協力をいただいた。今後も文化を披露、継承していきたい団体と日本文化を知りたい外国人の懸け橋ができるように連携を深めていく。
青年会議所とはSDGsをテーマに今後もお互いの活動への外国人への参加促進などで連携していく。
今年度は、こちらからの連携、協力依頼だけではなく、市内団体から一緒に活動したいという声をいただくようになり、協会の活動に理解をいただくことができてきた。

(4) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

日本語教室の周知については、市内在住の全外国人(特別永住者除く)に発送した。日本語教室の動画をYouTubeで公開していることで、市内外の多くの方に活動を知っていただくことができた。
また、初級日本語教室、外国人入財と地域づくり、やさしい日本語講座などは市広報に様子を掲載された。消防本部でのやさしい日本語については、市Facebookにも掲載してもらったなど、市民へ周知を行った。
また、市ケーブルテレビでも講座の様子を特番で放送してもらい、参加していない市民へも講座の内容を視聴してもらう機会を設けた。

(5) 改善点、今後の課題について

○日本語教育について
国籍や性別などが異なる外国人市民が参加された初級日本語教室では、回を重ねるごとに学習者同士の交流ができていた。ただ、指導者側からの意見で、同じ日本語初級でも、日本語を使う場面に合わせたクラス設定を行い、指導者への負担も軽くし、学習者にも分かりやすい教室の提供を目指す。そのために、指導者としても、日本人だけでなく、外国人支援者の育成活用も今後は行っていく。
○多文化共生の推進について
引き続き、市民への啓発を行っていく。講演会の開催だけでなく、活躍する外国人市民の紹介や市内関係団体と外国人市民の懸け橋となるよう、広報誌やSNSなどで発信を行う。
○体制の整備について
このコロナ禍でオンラインが普及されたこともあり、支援者を市内だけで探すのではなく、(公財)京都府国際センターのネットワークなどを活かし、オンラインを活用し市外からも支援者として活動してもらえる人財を募集していく。これをきっかけに、本市の交流人口の増加も目指していく。
令和4年度は、本市の多文化共生推進プランの第3次策定年度であり、策定にあたり、今一度、多文化共生の要でもある日本語教育について、行政、企業と一緒に、ニーズに合わせた教室開催について検討していく。また、外国人市民、日本人市民へもアンケートを行い、多文化共生の啓発に務める。

(7) その他参考資料

- ◆初級日本語教室チラシ(英語・中国語・タガログ語・ベトナム語)
- ◆外国人入財チラシ
- ◆やさしい日本語(消防本部)
- ◆やさしい日本語(コロナ対策室)